

防災特集

これから梅雨や台風の時期となり、水害や土砂災害の危険性が高くなります。

近年、全国各地で自然災害が多く発生しています。

大雨や台風などの自然災害から身を守るために、この機会に地域や家庭での防災対策について考えてみましょう。

災害時の避難情報と避難行動

洪水、土砂災害や大規模火災など人の命に危険がおよぶ恐れがあるときは、町から次の避難情報を発令します。情報の種類と私たちのとるべき行動を確認しましょう。

警戒レベル 3

避難準備・
高齢者など避難開始

高齢者などは避難

- 避難に時間を要する人(高齢者、障がいのある人、乳幼児など)とその支援者は避難を開始しましょう。
- その他の人は避難の準備を整えましょう。

警戒レベル 4

避難勧告、
避難指示(緊急)

全員避難

- 速やかに避難先に避難しましょう。移動が困難な場合は、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。

警戒レベル 5

災害発生情報

命を守る行動をとる

- すでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。

警戒レベル4および警戒レベル5が発令された場合に、外出することでかえって命に危険が及ぶような状況の場合は、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

必ずしも、この順番で発令されるとは限りません。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

※警戒レベル1および警戒レベル2は、気象庁が発表します。

災害時の情報伝達

災害の発生や避難情報などが発表された時は、さまざまな方法で緊急情報を発信します。メール配信の登録を事前におきましょう。



防災行政無線

内容が聞き取れなかったときは

■防災行政無線テレホンサービス

☎0180-999-033

※通話料がかかります

■NBC データ放送

NBC テレビ(3チャンネル)→
d ボタン→自治体情報→広報無線

■町ホームページ

ホームページトップの「緊急情報」
で防災情報が確認できます。



防災・行政情報配信メール

防災行政無線(広報無線)の放送内容をメールで配信しています。

■新規に登録する場合

下記アドレスに空メールを送信してください。

bousai.saza-town@raidan2.ktaiwork.jp

※ QR コードも利用できます。



ハザードマップの確認を！



平成31年4月に配布した「佐々町総合ハザード
マップ」を普段から確認しておきましょう。

※町ホームページでも確認できます。

災害時の安否確認方法を確認

●災害用伝言サービス

災害時に電話がつながりにくいときに、家族や知人との間で、連絡などをスムーズに行うためのサービスです。

【災害用伝言ダイヤル(171)】電話を使って安否確認

災害時に、電話番号宛てに安否確認(伝言)を音声で録音(登録)し、全国からその音声を再生(確認)することができます。

伝言を残す(録音)

伝言を聞く(再生)

「171」にダイヤルする

「1」を押す

「2」を押す

自宅や携帯電話などの電話番号を入力する

伝言を聞きたい電話番号を入力する

「1」を押す

「1」を押す

「録音」する

「再生」が始まる

「9」を押す

※毎月1日・15日などに体験利用ができます。

【災害用伝言板】モバイルサイトで安否確認

被災地での安否確認と100文字までの文字メッセージを登録することができます。また、登録された安否情報は、他社の携帯電話やスマートフォン、パソコンからも確認可能です。各携帯電話会社のホームページなどをご確認ください。

非常持ち出し品の準備を

●非常持ち出し品の例

- ☐ 飲料水(1人500mlのペットボトル3本以上)
- ☐ 食料(調理せず食べられるもの)
- ☐ 貴重品(現金・預貯金通帳・健康保険証 など)
- ☐ 応急医薬品類(常服薬・常備薬・ばんそうこう など)
- ☐ かかりつけ医療機関などを書いたメモ・お薬手帳 など
- ☐ 日常生活用具(筆記用具・眼鏡・入れ歯・粉ミルク・紙おむつ・生理用品 など)
- ☐ 衣類・手袋・タオル・ティッシュ
- ☐ ヘルメット・防災頭巾 など
- ☐ 携帯ラジオ(手動充電が可能なもの)
- ☐ 携帯電話(充電器・予備バッテリー含む)
- ☐ 懐中電灯・マッチ・ライター
- ☐ 雨具・運動靴

●新型コロナウイルス感染症対策

- ☐ マスク
- ☐ アルコール消毒液
- ☐ 体温計



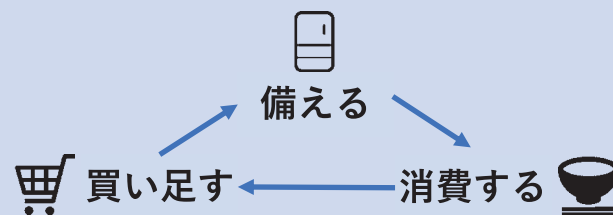
在宅避難に備えて備蓄を

●各家庭での備蓄物品の例

- ☐ 飲料水(1人1日3ℓ・3日分)
- ☐ 食料(調理不要な缶詰、レトルト食品 など、非常食3日～1週間分以上)

●ローリングストックで上手に備蓄

普段から使っている日用品や日持ちする食べ物を少し多めに備え、使った分だけ買い足していくという方法なら、備蓄を無理なく続けることができます。災害時に当面の生活をするのが可能になります。



地域防災力向上を目指して

防災に欠かせない考え方が「自助・共助・公助」です。

【自助】は、住まいの点検や生活必需物資の備蓄などを行い、自分の身の安全は自分で守ること。

【共助】は、自主防災組織などの活動に積極的に参加・協力するなど、地域のみなさんや身近にいる人たちが協力して助け合うこと。

【公助】は、行政などが防災体制の整備や災害時の救助・支援を行うこと。

【自助・共助・公助】の連携が、災害時の被害を減らし、被害の迅速な回復を図る『減災』に不可欠です。

